

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グロデュエーション・ポリシー (GP) ・主体的に多様な人と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 ・心身の鍛磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を主体的に学習に取り組む態度を育成 ・基本的生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基本的生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組み、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇生活デザイン科・生活文化科		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「コンクールや検定への積極的な取組」の項目では90.6%、「わかる授業、工夫ある授業」の項目では86.4%という肯定的な意見が得られた。 「ICTを活用した学習活動」の項目では、肯定的な意見が昨年度より改善され78.8%に上昇したが、他項目より低い。「地域や外部との交流体験」の項目でも、肯定的な意見が71.3%にとどまった。 「基本的モラルやマナーを身に付ける」の項目では肯定的な意見が多い反面、実際の行動が伴わない生徒もいる。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ICT機器を活用した授業を展開し、基礎的・基本的な知識・技術の定着を図る。 ◇外部との交流を通しての協働的な学習の実施と情報発信を行う。 ◇継続したマナー指導による、生徒の意識向上と行動変容を目指す。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業教材の研究および研修の実施 地域や他校種など、外部との積極的な交流活動の実施 分掌や学年と連携した情報共有および指導 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) ICTを活用した授業を研究・実践し、授業改善を図る。 (2) 地元企業や他校種等の外部との交流活動を積極的に実施する。 (3) 学校生活の様々な場面を通して、マナー・モラルを身に付けさせる。	(1) 授業の自己評価、授業アンケート (2) 外部との交流活動の実施状況および体験後の感想 (3) 生徒の意識や行動の変容		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業実践及び研修への参加 各種講習会実施、高大連携事業、特別支援学校との交流、岩野田保育園との交流、岐山高校および地元飲食店との連携、外部での作品展示等 日常の学校生活における継続指導、学科集会の実施、学年や分掌との連携 	①授業評価の結果 ②外部との交流活動の実績 ③生徒へのアンケート(感想を含む)、意識や行動の変化	A (B) C D A (B) C D A B (C) D	
12 成果・課題	○授業および教材研究を通して、工夫した教材やICT機器を活用の情報を交換し、分かりやすい授業につなげることができた。また、授業で使用できるコンテンツを増やし、共有することができた。 ○コロナ禍により、昨年度まで制限され実施できなかった外部との交流活動を、新たな取組も含め実施することができ、生徒の発展的・協働的な学習につなげることができた。 ▲ルールやマナーを常に意識できる生徒が多くいる一方で、意識の低い生徒もおり、注意を受けて直すことができても長続きしないという現状がある。なかでも、授業規律とスマートフォンの扱い方が課題である。		
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即し、自ら学ぶ意欲を高められるような学習内容や行事を検討し再構築を行う。 各部との連携を強化し、継続的な粘り強いマナー指導で、社会人としての資質を身に付けさせる。 魅力ある学科づくりを推進し、地域や中学校への情報発信を積極的に行う。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

【意見・要望・評価等】
・ ・ ・

